研究課題　長崎市中「本石灰町乙名本山家文書」の研究資源化に向けた調査研究

研究経費　五〇万円

研究組織

　研究代表者　　　藤本健太郎（長崎外国語大学外国語学部・講師）

　所内共同研究者　松井洋子・荒木裕行

　所外共同研究者　木村直樹（長崎大学多文化社会学部・教授）・吉岡誠也（東京大学地震火山史料連携研究機構・特任研究員）・赤瀬浩（長崎市長崎学研究所・所長）・德永宏（長崎市長崎学研究所・係長）

研究の概要

（１）課題の概要

　本石灰町（もとしっくいまち）は長崎市中80か町のうち、丸山遊廓を構成した丸山町と隣接する町である。本石灰町の乙名職は18世紀後期以降、本山家が6代にわたり襲職し明治に至った。本山家で保管していた古文書史料のうち、約1,150点が「本石灰町乙名本山家文書」として現存している。「本石灰町乙名本山家文書」は、近世長崎の町乙名を中心とした都市運営の実態を知る上で貴重な記述が多数確認されており、近世都市史研究にも研究成果を還元できる重要な史料群である。  
しかし、当該史料群の収蔵機関は、現在東京大学史料編纂所（所蔵分と寄託分）と長崎歴史文化博物館（長崎県立長崎図書館寄贈分、長崎市長崎学研究所購入分を収蔵）の2か所に分散しており、両機関に収蔵されている史料を本山家に由来する史料群として、包括的に整理・把握できていない状況にある。  
　本研究では、両機関に収蔵されている史料群の概要把握を進めるとともに、史料1点ごとの概要掲載を含む、詳細な総合目録を作成することで「本石灰町乙名本山家文書」の研究資源としての活用に努めたい。また、その史料群の特性を踏まえた共同研究も実施する。

（２）研究の成果

　今回の共同研究を通じて、長崎歴史文化博物館及び東京大学史料編纂所、双方の史料を詳細に比較・分析することが可能となった。  
そのことにより、本山家の歴代当主及び乙名在職期間など「本石灰町乙名本山家文書」に関する基礎研究を進めることができた。加えて、当該文書群の近代以降の来歴についても追跡し、当該文書群が各機関に分散して伝来するに至った経緯を明らかにすることができた。  
同文書群の来歴と構成は以下のように整理できる。  
A史料編纂所収蔵  
寄託分　約1050点　同家から親族に継承された文書・古写真・御絵像等を含む。  
購入分　約450点　  
B長崎歴史文化博物館収蔵  
①長崎県立長崎図書館寄贈受入れ分  
・本山和雄氏から寄贈を受け一般郷土資料に含まれるもの　約60点  
・郷土史家福田忠昭氏収集史料の寄贈による「福田文庫」に含まれるもの　約30点  
②長崎市長崎学研究所購入分　約50点  
  
全体としては、乙名本役の職務、乙名加役としての本山家が務めた盗賊掛吟味方、旅人改方及び銅座跡支配掛の職務、本山家や本石灰町の活動のそれぞれに関わる史料が確認でき、多角的な分析が可能な史料群であることが明らかになった。